

である。(2)は左側辺が剥離している可能性がある。(4)の下端には横方向の圧痕がある。(5)は判読不能であるが、横方向に文字が書かれていると考えられる。

木簡の釈説に際しては、兵庫県立歴史博物館の小来栖健治氏、松井良祐氏のご教示を得た。

9 関係文献

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『兵庫津遺跡I（西出地区の調査）』（兵庫県文化財調査報告一四三、一〇〇一年）

同『兵庫津遺跡II（浜崎・七宮地区の調査）』（兵庫県文化財調査報告一七〇、一〇〇四年）

（菱田淳子）

大阪府堺市にある「土塔」は、神龜四年（七二七）に行基が建立した大野寺にある土で築いた仏塔である。このたび発掘調査で出土した文字瓦に、全国各地で所有・保管されている文字瓦を加えた一二〇〇点余りの釈文を収録した報告書が刊行された。土塔の文字瓦を聚成したのはこれが初めてである。考察には網干善教、森郁夫、東野治之、近藤康司、岩宮未地子の各氏の論考を掲載する。行基の活動を直接的にうかがうことのできる文字資料として価値は高い。

A4判一九一頁 一二〇〇四年三月刊 頒価四八七〇円

頒布連絡先

堺市市政情報センター

電話〇七二一（二四五）六二〇一（郵送取扱あり）

堺市博物館

電話〇七二一（二四五）六二〇一（直接販売のみ）

堺市教育委員会

『史跡土塔—文字瓦聚成』の刊行